

31 年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 音楽 I (2 単位)

1、教科書・副教材

音楽 I 高校生の音楽 I (教育芸術社)

2、科目の目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して) 歌唱・合唱	・読譜の基礎力をつける(音高、16分音符までの音価、拍子、リズムの理解) ・「校歌」「世界にひとつだけの花」に慣れる ・3部合唱の楽曲を用い、ハーモニーを楽しみながら歌う ・自分のパート以外の旋律を意識しながら表現する技術を身につける	13
	5月			
	6月			
	7月	器楽 鍵盤楽器 実習	・鍵盤楽器の仕組みと歴史 ・音階やコードについて学ぶ ・創作活動を加えながら、メロディー奏やコード奏による演奏をする	15
	8月			
9月				
後期	10月	器楽 ギター実習 和楽器(箏など)の演習鑑賞	・ギターの仕組みや弾き方、タブ譜の読み方を学ぶ ・簡単なメロディー譜を演奏する ・和楽器に触れ、西洋音楽との相違を学ぶ	18
	11月			
	12月	歌曲の独唱	日本歌曲及び簡単なイタリア語・ドイツ語の歌曲をのびのびと歌う	17
	1月	交響曲、オペラなどの芸術作品鑑賞	・声や楽器の特性に気づく ・楽曲の歴史的背景を学ぶ	
	2月	簡単な合唱や合奏	・1年を通して学んだことが発揮できるような楽曲を全員で演奏する	
	3月			

4、評価の方法

(1) 学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか (2) 音楽を感じ取り、思いや意図を持って表現活動ができているか (3) 音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり美しさを味わって鑑賞できているか
以上の点と、授業態度・意欲、出欠席の状況を踏まえ実技テストや授業で提出するプリントによって評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ 基礎的な学習が多いので、しっかり出席し基本を身に付けるよう心がける。個々の音楽経験や能力によって差が出てしまうこともあるが、まずは意欲・興味をもって取り組むことが大切である

31 年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 音楽Ⅱ (2単位)

1、教科書・副教材

音楽Ⅱ MOUSA 2 (教育芸術社)

2、科目の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して)		13	
	5月	歌唱・合唱			
	6月				15
	7月				
	8月				
後期	9月	器楽 ギター実習		15	
	10月	器楽 鍵盤楽器実習			
	11月				
	12月				
	1月	鑑賞 世界の民族音楽や楽器、日本の伝統音楽などの鑑賞			17
	2月				
	3月	創作 日本音階を使った創作			

4、評価の方法

(1) 学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか (2) 音楽を感じ取り、思いや意図を持って表現活動ができているか (3) 音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり美しさを味わって鑑賞できているか
以上の点と、授業態度・意欲、出欠席の状況を踏まえ実技テストや授業で提出するプリントによって評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ しっかり出席をし、音楽Ⅰで扱った基礎も復習しながら、さらに高度なことに挑戦できるよう意欲的に取り組むこと。

1、教科書・副教材

音楽Ⅲ 改訂版 (教育出版)

2、科目の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ,Ⅱに学んだソルフェージュの発展 ・正しい発声法を身につけ、意欲的に歌う ・音程やリズム、フレーズなどを把握し、歌唱表現するための技術を学ぶ ・3部合唱の曲を用い、パートの融和とバランスに配慮し、調和の取れた表現を心がける 	13
	5月			
	6月			
	7月	斉唱・合唱	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の歌曲を通して、発音やその国の文化を学習をする ・様々な表現の仕方を学び、表現上の効果を生かして歌う 	15
	8月	歌唱「初恋」など日本の芸術歌曲や外国語の歌曲		
9月				
後期	10月	器楽 キーボード、ギター、ハンドベルなどによる全体合奏	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいリズム、コードを理解して演奏する ・楽器に応じた奏法の工夫を図り、パートごと協力して合奏の成立を目指す ・さまざまなジャンルの楽曲を体験する ・楽曲によって、鑑賞も取り入れ総合的に取り組む 	18
	11月			
	12月	好きな曲を演奏しよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分で楽器や曲を選び、演奏する ・独奏、独唱、アンサンブルなどの形態も自分たちで決める ・最後に発表会をし、お互いの演奏聴きあう 	17
	1月			
	2月			
3月				

4、評価の方法

(1)学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか (2)音楽を感じ取り、思いや意図を持って表現活動ができているか (3)音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり美しさを味わって鑑賞できているか以上の点と、授業態度・意欲、出欠席の状況を踏まえ実技テストや授業で提出するプリントによって評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ 意欲的に取り組むこと。合唱や合奏が増えてくるので、回りと協力して授業を進めていくよう心がけること。

31 年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 音楽鑑賞 (2 単位)

1、教科書・副教材

音楽の鑑賞資料と基礎学習 (教育芸術社)

2、科目の目標

様々な作品の鑑賞を通して、豊かな感性と音楽を愛好する心情、また幅広い音楽に興味・関心を持てるような耳を養うとともに、音楽文化を尊重する態度・批評する能力を育てる。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	西洋音楽史概要	文化的構造を明確にした概要説明を行い、代表作の鑑賞を通して、時代様式を理解する。	13	
	5月				・中世の音楽からバロックの音楽
	6月			・古典派の音楽	15
	7月				15
	8月			・ロマン派の音楽	
	9月				
後期	10月	音楽と社会の関わり	・近現代の音楽	18	
	11月		身近な音楽と社会について ・郷土の音楽や様々な国の民族音		
	12月		・日本の伝統音楽 (日本音楽史概要や歌舞伎、能狂言など)	17	
	1月		・環境音、音楽と映像の関係		
	2月		テーマを決め、調査、考察、発表を行う。		
	3月				

4、評価の方法

(1) さまざまな国や形式の違う音楽作品に興味関心をもち、理解を深められているか
 (2) 客観的に音楽の美しさを味わえているか(3)音楽に対する感情を、ふさわしい言葉で表現できているか
 以上の点を踏まえ、授業態度及び鑑賞後の感想文、レポートが主な評価対象である。それらと筆記試験の結果を総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※音楽鑑賞は聴こうと思う気持ちがあれば成り立たないものである。授業も意欲的に様々な音楽に興味をもって取り組むことが大切である。また、感想は1人1人違って当たり前のので、自分の感じたことを素直に表現していくことが大事である。

科目名 合唱・合奏 (2 単位)

1、教科書・副教材

The Basics of Music

2、科目の目標

音楽に関する専門的な学習を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、より豊かな表現力を伸ばすとともに、協調性や連帯感を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な読譜力の復習 ・合唱や斉唱の楽しさを味わう ・曲種に応じた発声法の工夫を図る 	13
	5月	歌唱 斉唱と合唱		
	6月	コンコーネ・イタリア歌曲・季節の歌等		15
	7月	アンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱と器楽を組み合わせ、全員でアンサンブルを楽しむ ・様々な民族楽器を演奏することによって民族音楽の理解へつなげる ・自己表現力及び協調性を養う 	15
8月	「風になりたい」			
9月	「Ave maria」や ボディパーカッションなど			
後期	10月			18
	11月	器楽 独奏・合奏 「ふるさと」「大きな古時計」	<ul style="list-style-type: none"> ・独奏曲で個々の演奏技能を高める ・他パートをよく聴きながら、自分の音を全体に調和させる 	
	12月	(ミュージックベル)「主よ、人の望みの喜びよ」		17
	1月	(キーボード)や 「G線上のアリア」(ギター)な		
	2月			
	3月			

4、評価の方法

(1)さまざまな音楽作品について、客観性と多様性を理解できたか(2)さまざまな音楽活動に積極的・主体的に取り組めたか
以上の点を踏まえ、授業態度、出欠席を主な評価対象とし、数回の実技テストを総合的に

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※基礎的な読譜力を身に付け、様々な楽曲に意欲的に取り組むこと。協力して合唱合奏の練習に参加すること

31 年度 学習の手引き(シラバス)

書道 I (2 単位)

1、教科書・副教材

新編 書道 I (教育出版)

2、科目の目標

書は文字を素材として、書く人の精神や感興を表現する芸術である。書道の幅広い活動を通して、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。その中で、豊かな感性と書を愛好する心情を育む。

3、学習の計画

学習の内容			考查範囲	時数(予定)
前期	4月	書写から書道へ	プリント提出 作品提出	13
	5月	篆刻の学習 今年度の目標を書作品に		
	6月	・篆刻の歴史を知り、名印を刻す	プリント提出 作品提出	15
	7月	楷書の学習	プリント提出 作品提出	15
	8月	・楷書の基本を学ぶ ・臨書 唐の四大家		
	9月	行書の学習		
9月	・行書の基本を学ぶ ・臨書 蘭亭序			
後期	10月	創作	プリント提出 作品提出	18
	11月	漢字の書の創作		
	12月	仮名の学習	プリント提出 作品提出	17
	1月	・仮名の基本を学ぶ 基本的な筆使い ／連綿／散らし書き ／料紙の作製／臨書作品		
	2月	漢字仮名交じりの書		
	3月			

4、評価の方法

1 与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品・プリント
2 課題ごとの講習会で、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞
3 用具の準備片づけが行えているか。	用具の扱い
4 授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

・よい物を作るために「こだわり」のある作品作りをする。
・「作品講習会」等を通して、友人の作品から発想や表現を学ぶ。
・提出作品は、与えられたテーマに沿って制作し、期限を守る。
・用具の準備片づけをきちんとする。
・始業のチャイム前に、用具の準備を行う。

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

科目名 書道Ⅱ (2 単位)

1、教科書・副教材

新編 書道Ⅱ(教育出版)

2、科目の目標

書道Ⅰでは、書写能力を高め表現と鑑賞の基礎的な力をつける学習をしてきた。書道Ⅱでは、より幅広い創造的な活動を通して、書の理解を深め、書に関わる活動を楽しめるようになることを目指す。また、書の表現と鑑賞の能力をより高めるとともに、書の文化に対し理解を深め、個性豊かに表現する力を伸ばしたい。

3、学習の計画

学習の内容			考查範囲	時数(予定)
前期	4月	漢字仮名交じり書	プリント提出 作品提出	13
	5月	篆書の学習		
	6月		プリント提出 作品提出	15
	7月	隸書の学習	プリント提出 作品提出	15
	8月			
	9月	草書の学習		
後期	10月	仮名の学習	プリント提出 作品提出	18
	11月			
	12月	漢字仮名交じり書	プリント提出 作品提出	17
	1月			
	2月			
3月				

4、評価の方法

1	与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品・プリント
2	課題ごとの講評会で、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞
3	用具の準備片づけが行えているか。	用具の扱い
4	授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

・よい物を作るために「こだわり」のある作品作りをする。
・「作品講評会」等を通して、友人の作品から発想や表現を学ぶ。
・提出作品は、与えられたテーマに沿って制作し、期限を守る。
・用具の準備片づけをきちんとする。
・始業のチャイム前に、用具の準備を行う。

※指導計画の内容は、進捗等によって変更することがある。

1、教科書・副教材

書道Ⅲ(教育出版)

2、科目の目標

- ・さまざまな書体を学ぶ中で書体の変遷について、理解をさらに深める。
- ・作品制作の中で自己表現の難しさと楽しさを体験し、更に鑑賞眼を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	仮名の学習 篆書の学習 隷書の学習 草書の学習 行書の学習 楷書の学習	プリント提出 作品提出	13
	5月			
	6月	くれきの祭出品作 品の制作	プリント提出 作品提出	15
	7月			
	8月			
	9月	篆刻・刻字の学習	プリント提出 作品提出	15
後 期	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・名印を刻す ・刻字について学ぶ ・刻す文字の選定 ・刻す文字を書く ・刻す ・彩色する 		
	11月			
	12月			
1月	漢字仮名交じり書	プリント提出 作品提出	17	
2月				
3月				

4、評価の方法

1	与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品・プリント
2	課題ごとの講評会で、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞
3	用具の準備片づけが行えているか。	用具の扱い
4	授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

・ よい物を作るために「こだわり」のある作品作りをする。
・ 「作品講評会」等を通して、友人の作品から発想や表現を学ぶ。
・ 提出作品は、与えられたテーマに沿って制作し、期限を守る。
・ 用具の準備片づけをきちんとする。
・ 始業のチャイム前に、用具の準備を行う。

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

31 年度 学習の手引き(シラバス)

実用書道 (2 単位)

1、教科書・副教材

なし

2、科目の目標

実用的にも芸術的にも日常生活に深く関わりのある書道を通して、実用・芸術両面に注目しながら、伝統文化を身近な生活の中で楽しむ経験を重ね、生涯に渡って書を愛好する心情を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	毛筆の学習 用具・基本用筆 の学習	・筆記用具の持ち方、使い方の確認 ・執筆法 表現	プリント提出 作品提出	13
	5月	硬筆の学習 基礎と応用	・筆記用具の持ち方、使い方の確認 ・基本的な点画を学ぶ ・漢字 ひらがな カタカナを学ぶ		
	6月		・はがき 封筒の書き方 ・手紙の書き方 ・履歴書等の書き方	プリント提出 作品提出	15
	7月			プリント提出 作品提出	
	8月	毛筆の学習 実用的な書	・氏名を練習する ・のし袋の書き方を学ぶ		15
	9月	毛筆の学習 様々な表現 刻字の学習 楽しむ書 グラス刻字	・毛筆、墨、構成の幅を研究する ・日常生活の中の書作品を考える ・書字の魅力 ・書字と言葉 ・執筆法と構成	プリント提出 作品提出	
後期	10月			プリント提出 作品提出	18
	11月	毛筆の学習 楽しむ書 年賀状	・年賀状を書く ・宛名を書く ・執筆法と構成		
	12月			プリント提出 作品提出	17
	1月	毛筆の学習 楽しむ書 カレンダー	・創作カレンダーの制作 ・書字と言葉 ・執筆法と構成		
	2月				
3月					

4、評価の方法

1 与えられたテーマに沿って作品が制作されているか、工夫されているか。	作品・プリント
2 課題ごとの講評会で、自他の評価を丁寧にして、まとめられているか。	鑑賞
3 用具の準備片づけが行えているか。	用具の扱い
4 授業に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしていないか。	出席・取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

・よい物を作るために「こだわり」のある作品作りをする。
・「作品講評会」等を通して、友人の作品から発想や表現を学ぶ。
・提出作品は、与えられたテーマに沿って制作し、期限を守る。
・用具の準備片づけをきちんとする。
・始業のチャイム前に、用具の準備を行う。

※指導計画の内容は、進捗等によって変更することがある。